

【科目名】高次脳機能障害学各論		【担当教員】伊林 克彦							
【授業区分】専門分野(失語・高次脳機能障害学)		【授業コード】5-28-1095-0-1		(メールアドレス)					
【開講時期】3年次前期		【選択必修】必修		(オフィスアワー)					
【単位数】1単位		【コマ数】8コマ		火曜～金曜 9時～18時					
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>1年次の中樞神経系に関わる解剖学や神経学の知識が必要とされます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>2年次に学んだ高次脳機能障害が、基本的にどのような疾患であるか予備知識として十分に把握しておくことが必要です。</p>									
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>大脳の器質的疾患に伴って現れ易い特異な高次脳機能障害について学ぶ。また、このような障害と、聴覚、視覚、体性感覚における認知の障害や行為の障害が、日常生活上どのような影響をもたらすか理解を深める。さらに、これらの症状に対する評価、分類、訓練法などを習得し、実践に役立つ知識を身に付ける。</p> <p>(方法)</p> <p>それぞれの高次脳機能障害に対する理解を深めた上で、実習前の授業として各種検査の評価法も学ぶ。</p>									
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>3年次の評価実習および4年次の総合実習で行う当該科目の各種検査に対応するため、主にグループにて必要な技能を習得する。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>高次脳機能障害に対する、評価、分類、訓練法などが実践できる。</p>									
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>藤田郁代 他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年 ¥4,725</p>									
<p>【参考書】</p> <p>伊林克彦 他著・「言語障害と画像診断」西村書店、2005年、¥3,800</p> <p>石合純夫・「高次脳機能障害」医歯薬出版株式会社、2005年、¥4,200</p>									
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p> <p>評価は、講義終了後の筆記試験にて行う。</p>									
【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80		20					100点
評価	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力								

平成 26～28 年度入学者用

指 標	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営 方法		学修課題(予習・復習)		時 間 (分)			
1	病態認知と行為の障害								
2	記憶の障害								
3	前頭葉と高次脳機能障害								
4	失算 脳梁離断症状								
5	脳外傷								
6	高次脳機能障害の評価								
7	認知リハビリテーション								
8	まとめ								

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。

高次脳機能障害実習

【科目名】高次脳機能障害学実習		【担当教員】阿志賀 大和
【授業区分】ST 専門失語・高次脳機能障害学	【授業コード】5-28-1100-0-1	(メールアドレス) ashiga@nur.ac.jp
【開講時期】3 年次 通年	【選択必修】必修	(オフィスアワー) 在校時に対応
【単位数】1	【コマ数】23	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) <ul style="list-style-type: none"> ・各講義の冒頭に小テストを行い、その点数も成績に反映するため、事前に連絡がない場合またはやむをえない事情を証明できない遅刻・欠席によって小テストを受けられなくても点数を与えない。 ・検査や訓練の演習を交え講義を進めるが、講義・演習中の私語は成績に反映させる。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) <ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害学概論・高次脳機能障害学各論で学んだ知識を基に、講義を進めるため復習しておくこと。 ・実際に、検査を全員の前で行ってもらうこともあるため、集中して取り組むこと。 ・遅刻、欠席、早退は学則に従う。 		
【講義概要】 (目的) 失語症、高次脳機能障害とその症状、および原因となる種々の領域との関連を理解したうえで、適切な訓練を選択し、訓練計画を立てられることは臨床上なくてはならない重要な技能であるため、失語症、高次脳機能障害領域の評価法、訓練法について理解する。 (方法) <ul style="list-style-type: none"> ・評価バッテリーを用いての相互演習を交え、失語症、高次脳機能障害領域に対する評価法を学ぶ。 ・症例を通して、評価、訓練計画立案、訓練実施の一連の流れを学ぶ。 		
【一般教育目標(GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・失語症、高次脳機能障害とその症状、および原因となる種々の領域との関連を理解したうえで、適切な訓練を選択し、訓練計画を立てられる。 		
【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・症例に適切した評価を行い、適切な訓練計画立案を行うことができる。 		
【教科書・リザーブドブック】 藤田郁代監修「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学第2版」医学書院、2015年 ¥5,184		
【参考書】 石合純夫：高次脳機能障害学第2版、医歯薬出版、2003. ¥4,400+税 三村将、早川裕子：高次脳機能障害マエストロシリーズ②、医歯薬出版、2006. ¥2,940		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則規定の GPA 制度に従う。 ・小テスト (20%)、その他 (受講態度) (10%)、試験成績 (70%) で評価する。 ・その他 (受講態度) (10%) については、注意 1 回につき 1 点ずつ減ずる減点方式とする。 		

平成 26～28 年度入学者用

【達成度評価】		試験	小テ スト	レポート	成 果 発表	実技	ポートフ ォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	20	0	0	0	0	10	100 点
評 価 指 標	取り込む力・知識	70	20	0	0	0	0	0	90 点
	思考・推論・創造の力	0	0	0	0	0	0	0	10
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	10	10
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営 方法		学修課題(予習・復習)		時間 (分)			
1	高次脳機能障害学実習概論 高次脳機能障害の概要、評価の目的を学ぶ	講義		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
2	検査実習（初回評価関連） 情報収集、スクリーニング、意識障害	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
3	検査実習（注意障害） 標準注意検査法、TMT、かなひろいテスト	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
4	検査実習（視空間認知障害） BIT	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
5	検査実習（認知面の障害） 標準高次視知覚検査	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
6	検査実習（行為面の障害） 標準高次動作性検査	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
7-8	検査実習（失語症-1） SLTA、WAB、SALA、失語症構文検査など	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
9-10	検査実習（記憶障害-1） WMS-R、RBMT など	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
11-12	検査実習（記憶障害-1） ペントン視覚記銘検査、三宅式記銘力検査など	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
13-14	検査実習（前頭葉障害） BADs、WCST、FAB など	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
15-16	検査実習（知能） WAIS-III、RCPM、Kohs など	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
17	検査実習（認知症） HDS-R、MMSE、CDR、CDT など	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
18	検査実習（画像診断） CT、MRI など	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに むけて復習すること		20			
19-20	訓練法	講義・演習		次コマ冒頭の小テストに		20			

平成 26～28 年度入学者用

	高次脳機能障害に対する訓練		むけて復習すること	
21	事例検討・文献抄読（失語症含む） 実際の症例を通し、評価・訓練の流れを考える	講義・演習		20
22	検査実習（まとめ） これまでにを行った検査について復習する	講義・演習		20
23	まとめ これまでの総括を行う	講義	試験にむけてこれまでの内容を復習すること	20

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。